

良き友 村瀬 豊さん

名誉教授 亀井 貞次

箱根駅伝を走り、インターカレッジで活躍された日本のトップアスリート・村瀬 豊氏を本学教員としてお迎えしたのは昭和44年（1969年）4月1日でした。

本学就任後もアスリートに軸足を置き、国民体育大会等で活躍されました。

瀬戸キャンパスの陸上競技場で朝のトレーニングを終えた先生が山田 憲太郎学部長（「東亜香料史研究」で日本学士院賞を受ける）・深見 勲教授（論文がNATUREに掲載）達とティータイムを楽しむ姿が昨日のように思えます。親子ほど年の違う若い先生方を温かな慈愛深い愛情で見守ってくれた校風は彼の成長を支えていました。

また、運動生理学とバイオメカニクスに関する研究に取り組むために名古屋大学で毎週火曜日に開かれるセミナー「火曜会」に参加しました。

火曜会は松井秀治先生・宮下充正先生を中心にしたレベルの高い研究会で猪飼道夫教授の東京大学と双璧でした。セミナーは「J. Appl. Physiol.」, 「Med. Sci. Sports Exerc.」, 「Acta. Physiol. Scand.」, 「J. Sports Med.」, 「Ergonomics」, 「Europ. J. Appl. Physiol」等の世界最先端の論文を毎週二つ位紹介し、全員で議論をするという当時としては画期的な研究会でした。英語の論文を毎週読まなければならなかった村瀬先生の努力には頭が下がりました。

授業・研究・競技と教員生活は大変だったと思いますが、1971年の夏休みにペンシルベニア大学で開かれたバイオメカニクスセミナーを起点に研究者の道に転向されました。まだ外国へ出かけて勉強することが困難な時代に（言葉の壁と経済的な壁・1ドル360円）若さと情熱が壁を乗り越えました。

1973年7月ペンシルベニア大学で開催されたバイオメカニクス国際セミナーで「ボウリングのキネシオロジー」を発表され、帰途カリフォルニア大学サンタバーバラ校に立ち寄り、金子公宥先生（後・大阪体育大学学長）のご指導を受けました。

火曜会は愛知県立大学の星川 保先生、豊島 進太郎先生、名古屋大学の三浦 望慶先生、筆者等30代のエネルギー溢れる研究者が授業時間以外は毎日夜遅くまで新しいテーマに挑戦し、論文を「体育学研究」に投稿し、掲載されました。そこに新しい戦力・村瀬 豊先生、三重大学教授・水谷 四郎先生（後・三重大学教育学部長）等も加わり、発展しました。研究の合間を利用してイワナ・アマゴ釣りにも出かけました。中でも滋賀県の日野川の源流・夜叉ヶ池からでる沢に入り、村瀬先生も30センチ近いイワナを釣り上げ、釣りの楽しさを会得したと思います。

文化的な素養に欠ける私たち体育・スポーツ人は毎日の生活の中で無頓着に過ごしがちですが村瀬 豊先生はこの面でも気配りできる人でした。

本学の監事をお勤め頂いた、磁器染付で手描きの食器を作り続けた「竹鳳窯」の伊藤 伊平先生と

は親子ほどの年の差を乗り越え、家族を交えた交流を楽しめました。10年ほど前、私に伊藤先生の食器で欠けたのがありましたらお知らせ下さいと話がありましたので、理由を尋ねたところ、今は金繋を習っているので修理をして下さるとのことで驚きました。修理を終えた彼の茶碗を見て、技術の高さに脱帽しました。

また、本学の第二研究館に展示されている（捕鯨）の製作者・CLAIRE FEJES氏（アメリカで有名な女性画家）も彼の友人です。

大学卒業時には余り得意でなかったであろう英語も外国人と臆することなく会話を楽しむ、本人の努力が実を結び、仲間の中ではピカイチでした。

村瀬先生の明るい、開放的な性格は多くの人に受け入れられ、特に学会等で知り合った外国人の数は日本人の友人を上回ったと思います。

毎週月曜日には授業終了後、星川・豊島・村瀬・亀井の4人で日が落ちるまでテニスのダブルスの試合を楽しんだことが良き思い出です。村瀬先生は陸上で鍛えた長いストライドで遠くのボールに追いつき、長い手でリターンするので我々は苦勞しました。

そのころは昼食をみんなで一緒に楽しく頂きました。話が発展し、カナダヘスキーに出かけることもできました。村瀬先生が搭乗券を3日ほどで手に入れ急いで出発しました。カルガリー空港に夕方到着し、短時間の間に村瀬先生が宿を、私がバンフまでのバスの座席を確保し、バンフとレイク・ルイーザのスキー場でカナダの粉雪を堪能しました。バンフのサンシャイン・ビレッジでは2730mのルックアウト山頂から360度の大自然を楽しみ、約6kmの林間コースを滑り、日本と違いスケールの大きなスキー場に感嘆し、体力のある若い時に来るべきだと二人で残念がりました。余談になりますが、宿泊したバンフ・スプリングス・ホテルとシャトー・レイク・ルイーザは秀逸でした。



チャペル・ 二科会評議員 伊藤高義氏製作